

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>たまおか かおる 玉岡 かおる (文芸)</p>
<p>功績概要</p>	<p>昭和64年 「夢食い魚のブルー・グッドバイ」(新潮社)で文壇デビュー 平成19年 「お家さん」(新潮社 第25回織田作之助賞大賞) 平成25年 「虹つどうべし 別所一族ご無念御留」(幻冬舎) 平成30年 姫君の賦～千姫流流～(PHP 研究所) 令和3年 オペラ「千姫」上演 令和3年 「帆神 北前船を馳せた男・工楽松右衛門」(新潮社 第41回新田次郎賞)</p> <p>女性ならではの目線から、時代に翻弄されながらも凛として生きる人々の生き様を描いた歴史大河小説をはじめ、現代小説、紀行・エッセー集まで旺盛な創作活動を続け、播磨にこだわった作品を数多く上梓している。なかでも、明治～昭和期に総合商社鈴木商店を率いた姫路生まれの女性企業家鈴木よねを描いた小説「お家さん」(平成19年)では、ドラマ化、舞台化も相次ぎ、同人物への注目を集めた。</p> <p>姫路文学館では、「生誕100年椎名麟三展」(平成24年)、「川柳作家時実新子展」(平成29年)の記念講演会講師や「司馬遼太郎メモリアル・デー」関連番組(ラジオ関西)のインタビュアーを務めたほか、展覧会図録への寄稿など同館事業の充実および普及における尽力は枚挙にいとまがない。</p> <p>平成30年に上梓した「姫君の賦～千姫流流～」は、姫路市文化コンベンションセンター(アクリエひめじ)開館記念として企画された、オペラ「千姫」のために書き下ろした特別の作品である。徳川300年の中でも傑出した「姫の中の姫」、千姫の生涯を描いたもので、本作を原作とすることで、池辺晋一郎氏の音楽による壮大な歴史オペラが実現したと言える。</p> <p>歴史的事実の検証と考証によって、政治的なシンボルとして姫君であることを運命づけられながらも、なお自立した一人の女性として生き抜いていくという、全く新しい千姫像を提示したことは特筆に値する。併せて、オペラに相前後して姫路で千姫関係の講演会を行うなど、千姫の再評価にも一定の役割を果たした。</p> <p>千姫の姫路時代をドラマチックに切り取ったオペラは大きな話題を呼び、歴史と文化のまち姫路のシティイメージを向上させるとともに、世界遺産姫路城にまつわる新しい人間ドラマの掘り起こしと紹介に寄与した功績は極めて大きい。</p>